



会山行Cパーティー 満足のいく滑りができたほう？

仕入沢左俣滑降～同右俣中間尾根～未丈ヶ岳往復

石井

【日時】 2007年4月7日～8日

【メンバー】 石井 (L) 、鈴木、棚橋、大田原

「道の駅ゆのたに」から車に分乗してシルバーラインへ向かう。銀山平へと右折してトンネルを抜ければ、春らしい下界の景色とは一転、一面の銀世界。寡雪とは言われながらもまずまずの雪の量だ。先行していた高橋車は???

休業中の売店の駐車場に車を止め、トンネル出口向かって左手の変電設備？の裏手の小尾根に取り付く。木下パーティーと前後しながら、のっけからの急登と見事なまでの好天に汗が吹き出る。ペースが上がらず、稜線に出るまでに1時間以上かかってようやく赤崩山の肩に出る。日向倉山に向けて少し下り、広い尾根を辿るが、左手に遠望する未丈が遠い…。やや急な登りをこなすとようやくなだらかな日向倉山のピークに出た。

ひと休みの後、稜線を辿る木下パーティーと分かれ、雪庇の切れ間から仕入沢左俣へと滑り込む。カール状から沢へと入り込むが、ぎらつく太陽に照らされた、脛まで潜る重い雪！ターンは緩く、大回りしかできないなーと思っていると、それでも鈴木さんなどはそこそこ快適そうに滑っていく。技術・経験の差だろうか。最近のトマではすっかり見かける回数減ったフリトレだが、こういう雪には強く、棚橋さんが負けじと続く。大田原さんも安定した滑り。上手くなったね。

沢の斜度が増してくると、ボテボテとスラフが発生、きれいなシュプールには程遠い様相だ。地図上の岩マークは全く問題なく緩い沢型となっており、滝マークの部分のみ少し段差になっている程度。977m地点のひとつ上の二俣にて滑降は終了、目前の中間尾根を登ることにする。斜度はやや急、割れもあるが、どうにかシールで登高できる状態だった。途中、雪面を這い回る小動物を発見、捕まえてみたけれど、モグラですかねえ、大田原先生。

1376m峰に登り返し、急な雪庇のうねりを慎重に降りた先で、木下パーティーがテントを張っていたので、こちら少し上の窪みに泊まることにする。

翌朝、未丈ヶ岳へと少し稜線を進み、せいの沢右岸尾根への斜面に入ろうかどうしようかとしていたところ、にわかには風雪模様となり、あっさりと諦めてピーク往復に変更。広い稜線は頂上直下のみ急なだけで、概ねスキー向きだ。

各ルートからのメンバーが集い、泊まりのパーティーは9時半過ぎに無事集中。

広い稜線を飛ばし、泊場にて荷物を回収、1376峰を越えて日向倉山へと登り返す。ここからも日向倉沢滑降の予定ルートであったが、雪割れが予想されたため、こちらもあっさりもと来た尾根を戻ることにする。赤崩山への登り返しはパスし、真南の尾根から沢へと滑り込んだが、斜度こそ急なもの、どうにか雪が繋がっており、沢も埋まっていたので順調に銀山平へと戻ることができた。

白銀の湯や「じねん」で他パーティー（特にスキー）の話を聞いていると、今回の各パーティーの状況は似たり寄ったりで、我がCパーティーなどはけっこうマトモな方だったらしい。天気が良いすぎるからといって、文句をつけるわけにもいかないし、難しいもんである。

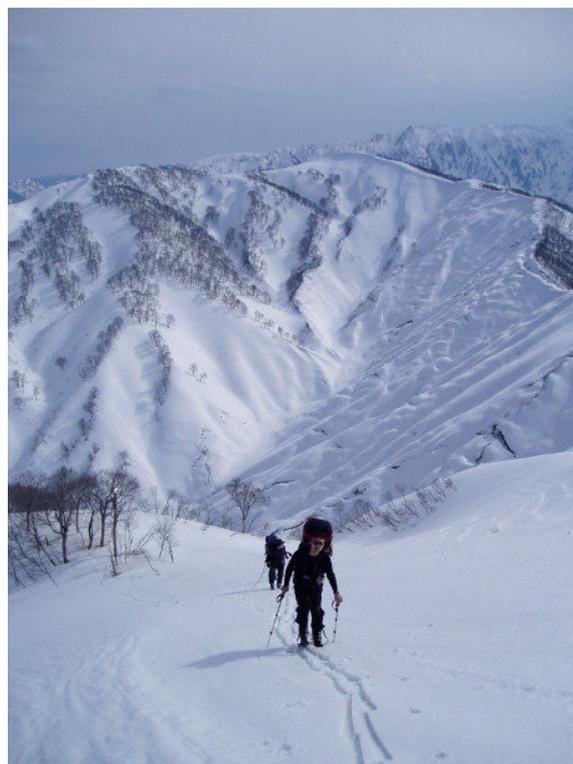
【コースタイム】

4月7日 銀山平 (8:25) - 日向倉山 (11:45/12:20) - (12:50/13:20) - 1376m峰先
泊場 (15:35) 4月8日 泊場 (6:50) - 未丈ヶ岳 (8:05/9:50) - 日向倉山 (12:05/35)
- 銀山平 (13:40)

【地形図】 1:25000 奥只見湖、未丈ヶ岳



<仕入沢左俣の滑降>



<中間尾根の登高。バックは左俣>